

微生物学	1年・前期	2単位	教授 世喜 利彦
科目カテゴリー	看護の対象の理解	科目ナンバリング	32210321

1. 授業のねらい・概要

微生物は人間にとって発酵食品や各種産業や、そして環境改善などに利用されている反面、人間や動物、植物に感染し、病気を引き起こす微生物もいる。結核、コレラ、マラリアなどが再び増加するだけでなく、エイズや鳥インフルエンザなど新病原体による感染症が出現している。本講座では、微生物の種類と特徴、感染してどのような病気を引き起こし、どんな症状であるのか、また診断、予防、治療について学び、臨床現場で活用できることを目的とする。

2. 学修の到達目標

1. 微生物との共存の大切さ、そして腸内常在菌の健康への関わりを学ぶ。
2. 臨床微生物、医動物の種類と特徴、感染症の臨床症状、診断、予防、治療を理解する。
3. 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(感染症法)を理解する。
4. 免疫とは何か? 体液性、細胞性免疫、細菌やウイルスに対する感染防御免疫を理解する。
5. ワクチンとは何か? 予防接種の目的を理解する。
6. 消毒と滅菌の必要性を知り、具体的な方法を理解する。
7. 感染症検査の概要、緊急を要する場合を理解する。
8. 感染症の治療概要、化学療法薬の種類、作用、副作用、投与方法等を理解する。

3. 授業の進め方

基本的には、教科書を中心にして講義を進める。必要に応じて、参考資料のプリントを配布する。

4. 授業計画 (講義)

1. 微生物、医動物とは何か? 呼吸器感染症
2. 結核、消化器系感染症、食中毒、肝炎
3. 尿路感染症、性感染症、皮膚・粘膜感染症、ウイルス、リケッチア感染症
4. 脳・神経感染症、人獣共通感染症、寄生虫感染症、小児感染症と母子感染
5. 高齢者及び日和見感染症、移植患者と感染症、術後コンマ創感染症
6. 針刺しと感染症及び、薬剤耐性菌、血管内カテーテル関連血流感染症
7. 臨床微生物の感染と宿主の関係、ワクチン接種と血清療法
8. 滅菌と消毒、感染症の検査、治療

5. 成績評価の方法・基準

定期試験(100%)の結果を判断基準にして評価する。

6. テキスト・参考文献

教科書: ナーシンググラフィカ ③ 臨床微生物・医動物 [第3版] メディカ出版 2020

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

微生物学は、看護学の重要な基礎となりますので、最低30分間の予習の中であらかじめ、授業前に必ず一度は予定範囲を読んでおくこと。復習(30分間以上)は、その日のうちに行う。

8. 受講上の留意事項

遠隔授業: オンデマンド型の場合は、1コマ(2回に分けた分)をそれぞれ最後まで視聴すること。
また不明な点、理解できない点があれば、遠慮しないで、質問すること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

当該授業科目の重要課題について作成したものを、最終授業の数週間前に配布する。試験直後に、正解および、そのねらいについては説明する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合、進級不可となる。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

該当する。本授業は、研究機関における研究員としての勤務経験を活かして、講義を行う。